

教科	科目	学年	単位数	使用教科書	主な使用補助教材
地理歴史	世界史特講	3	5	詳説世界史(山川出版社)	グローバルワイド最新世界史図表(第一学習社)

1 科目の目標と評価の観点

目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	

2 学習計画と観点別評価基準

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第6章 イスラーム教の諸地域への伝播	1 学期 (73)	①イスラーム化が中央アジアにもたらした変化について理解している。②南アジアにおいてイスラーム教が受け入れられていった経緯を理解している。③東南アジアにおいてイスラーム化が進んだ背景について考察し表現している。④アフリカにおいてイスラーム化が進んだ要因を考察し表現している。	中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地でどのようにイスラーム化が進んだのかを理解している。	『トルコ語・アラビア語辞典』序文などの資料をもとに、イスラーム教の伝播・拡大においてトルコ人の果たした役割を多面的・多角的に考察し表現している。	イスラーム教の各地への伝播について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第6章 西アジアの動向		①トルコ人の進出が西アジアにもたらした変化について考察し表現している。②十字軍やモンゴルの進出が西アジアにもたらした影響について考察し表現している。③マムルーク朝のもとでのカイロの繁栄がどのように実現したのか理解している。④イベリア半島におけるイスラーム勢力の興亡について理解している。	アッバース朝衰退後の西アジアにおいて、政治的統一は失われたが、経済・文化の交流を通じてイスラーム教徒（ムスリム）の連帯が維持されたことを理解している。	トルコ人の進出・十字軍遠征・モンゴル勢力の襲来といった外圧が、西アジアの社会へおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現している。	イスラーム教の各地への伝播について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第7章 西ヨーロッパの封建社会とその展開		①中世の西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つにいたった背景を理解する。②十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。③西ヨーロッパで商業が盛んになった理由を多面的・多角的に考察し表現する。④中世の都市が獲得した政治的地位や、そこでの人々の暮らしについて理解する。	中世の西ヨーロッパで発達した商業の活動状況とその特徴について、従来との比較をふまえて理解している。	中世都市の景観を示す図像資料や当時の交通路を示す地図をもとに、十字軍が西ヨーロッパに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	中世の西ヨーロッパについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを学習に取り組もうとしている。
第7章 東ヨーロッパの世界の展開		①ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。②ビザンツ文化が果たした世界的な意義について理解する。③スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。	ビザンツ帝国の衰退の過程と、その周辺のスラヴ人および非スラヴ人の動向について理解している。	西ヨーロッパやイスラーム勢力との関係をふまえたうえで、ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現している。	東ヨーロッパ世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第7章 西ヨーロッパ世界の変容		①封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。②教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。③各国における、身分制議会の成立と王権の伸張の関係を理解する。④百年戦争によるイギリスとフランスの変容を多面的・多角的に考察し表現する。⑤スペインで国王による中央集権化が早く進んだのはなぜか理解する。⑥神聖ローマ帝国で中央集権が進まなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。	封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパ各国の動きを理解している。	大憲章や金印勅書などの資料をもとに、中央集権国家の形成に向けた各国の動きの共通点と相違点を多面的・多角的に考察し表現している。	西ヨーロッパ世界の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第7章 西ヨーロッパの中世文化		①中世の西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割を理解する。②西ヨーロッパにおける大学の成立過程を理解する。③中世の西ヨーロッパの美術や文学と、その時代の社会との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	中世の西ヨーロッパの文化について、キリスト教の影響が大きかったことを理解している。	大聖堂の写真や大学の講義風景を描いた図像資料などをもとに、中世の西ヨーロッパの文化的な特徴を多面的・多角的に考察し表現している。	中世の西ヨーロッパの文化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第8章 アジア諸地域の自立と宋		①10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。②宋の対外関係の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。③宋における社会や経済の発展の様子を理解する。④宋代の文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解している。	「清明上河図」などの図像資料や莊綽『鷄肋編』などの資料をもとに、宋代の経済発展が社会に引き起こした変化を多面的・多角的に考察し表現している。	10～12世紀の東アジアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第8章 モンゴルの大帝国		①モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に考察し表現する。②モンゴル帝国による支配が東アジアにおよぼした影響について理解する。③モンゴル帝国時代の東西交流の新しさを多面的・多角的に考察し表現する。④モンゴル帝国解体の要因を理解する。⑤ティムール朝がモンゴル帝国から受け継いだものを多面的・多角的に考察し表現する。	モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。	モンゴル帝国の最大領域を示す地図や「混一疆理歴代国都之図」などの図像資料をもとに、モンゴル帝国の成立世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現している。	モンゴル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第9章 アジア交易世界の興隆		①モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況について理解する。②明朝初期の国内統治の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。③明との朝貢関係が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。④世界的な商業の発展が明の朝貢体制におよぼした影響を理解する。⑤明代後期の中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化との関係を多面的・多角的に考察し表現する。⑥16世紀の東南	「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解している。	「南蛮屏風」などの図像資料や鄭曉『今言』などの資料をもとに、この時期のアジア内およびアジアと世界の交流を多面的・多角的に考察し表現している。	アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第9章 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容		①ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。②ヨーロッパの人々の進出がアジアにもたらした影響や変化を理解する。③中南米の先住民が短期間でスペイン人に征服された要因を理解する。④16世紀に一体化が始まった「世界」の性格を多面的・多角的に考察し表現する。	ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。	ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラス＝カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』などの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。	ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第10章 オスマン帝国とサファヴィー朝		①オスマン帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。②オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。③オスマン帝国の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。④サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	オスマン帝国とサファヴィー朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていたのかを理解している。	オスマン帝国とサファヴィー朝を比較したうえで、それぞれの特徴や両者の関係を多面的・多角的に考察し表現している。	オスマン帝国とサファヴィー朝について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第10章 ムガル帝国の興隆		①ムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。②ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラム教徒の関係を多面的・多角的に考察し表現する。③ムガル帝国の衰退の背景や要因を多面的・多角的に考察し表現する。	ムガル帝国において非イスラム教徒に対する施策がどのように変化したのかを理解している。	ムガル帝国時代の細密画などの図像資料や領域を示す地図などをもとに、ムガル帝国の興隆と衰退が南アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	ムガル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第10章 清代の中国と隣接諸地域		①清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。②清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。③漢人の社会や文化に対して清朝がどのような態度をとったのかを理解する。	清朝の基礎が築かれた経緯や清代の政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解している。	皇帝を描いた図像資料や『康熙帝伝』などの資料をもとに、清代の皇帝と従来の中国王朝の皇帝との違いを多面的・多角的に考察し表現している。	清代の中国と隣接諸地域について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第11章 ルネサンス		①ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。②ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。③多方面におよぶルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解する。	ルネサンスの特徴や広がり、それが後世に与えた影響を理解している。	美術作品の図像などの資料をもとに、ルネサンスの新しさと古さを多面的・多角的に考察し表現している。	ルネサンスについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第11章 宗教改革		①それまでの教会改革の試みと16世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現する。②カルヴァンの教えの特徴やイギリス国教会の成立の意義を理解する。③カトリック改革が持つ世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。	新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解している。	『九十五カ条の論題』や『キリスト者の自由』などの資料をもとに、宗教改革の動きが広まった要因を多面的・多角的に考察し表現している。	宗教改革について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第11章 主権国家体制の成立		①主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。②16世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係を理解する。③アウクスブルクの和議とウェストファリア条約の異なる点を理解する。	主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解している。	ウェストファリア条約の内容や当時の戦争の様子を示す図像資料をもとに、主権国家体制の成立と戦争の関係を多面的・多角的に考察し表現している。	主権国家体制の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第11章 オランダ・イギリス・フランスの台頭		①17世紀におけるオランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。②17世紀における2つのイギリスの革命について、国際的な状況もふまえて理解する。③近世フランスの強みと課題を多面的・多角的に考察し表現する。④イギリスとフランスの覇権争いがグローバルな戦いになった背景を理解する。	オランダ・イギリス・フランスがそれぞれ持った有利な点や課題を理解している。	覇権争いの経過や「権利の章典」などの資料をもとに、イギリスが覇権を握るに至った要因を多面的・多角的に考察し表現している。	オランダ・イギリス・フランスの覇権争いについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第11章 北欧・東欧の動向		①主権国家体制においてポーランドとスウェーデンが占めた位置を理解する。②ロシアが主権国家体制に参入していった経緯を理解する。③プロイセンとオーストリアの関係の推移を多面的・多角的に考察し表現する。④啓蒙専制主義の特徴を理解する。	北欧・東欧の各国の関係の推移や、それぞれにおける改革の内容を理解している	ロシア・プロイセン・オーストリアの状況を比較したうえで、啓蒙専制主義による改革が各国におよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現している。	北欧・東欧の動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第11章 科学革命と啓蒙思想		①科学革命の成果について、自然法則の発見以外にも着目して理解する。②科学革命がヨーロッパ人に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。③従来の学知の展開と比較したうえで、「実用の学」としての啓蒙思想の意義を理解する。	科学革命と呼ばれる一連の変化がどのような背景で起こったのかを理解している。	ルネサンスとの比較をふまえて、科学革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	科学革命と啓蒙思想について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
定期考查	2				
第12章 産業革命	2 学期 （ 9 8 ）	①海外貿易が近世ヨーロッパ経済の動向に与えた影響を理解する。②イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。③16世紀に始まった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係について理解する。	産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。	当時の工場の様子を描いた図像資料や都市の人口を示す統計をもとに、産業革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	イギリス産業革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第12章 アメリカ合衆国の独立と発展		①北米大陸に建設されたヨーロッパ諸国の植民地の地理的分布とその推移を理解する。②独立直後と今日のアメリカ合衆国を比較し、共通点と相違点を理解する。③アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	メリカ合衆国がどのような歴史的経緯をたどって独立したのかを理解している。	アメリカ独立宣言や「権利の章典」（第11章4節）などの資料をもとに、アメリカ合衆国独立の独自性を多面的・多角的に考察し表現している。	アメリカ合衆国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第12章 フランス革命とナポレオンの支配		①革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響を理解する。②人権宣言とアメリカ独立宣言を比較し、共通点と相違点を理解する。②ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。	フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景を理解している。	「旧体制」の風刺画などの図像資料や人権宣言などの資料をもとに、フランス革命において「国民」を主役とする社会が創出されたことについて、多面的・多角的に考察し表現している。	フランス革命とナポレオンについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第12章 中南米諸国の独立		①ハイチ革命の特殊性について、環大西洋革命の他の事例と比較したうえで理解する。②中南米諸国の独立運動に共通する点を理解する。③中南米諸国の独立運動とヨーロッパ情勢との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	中南米諸国の独立がどのような経緯をたどって実現したのかを理解している。	中南米諸国の独立年を示す地図などをもとに、ヨーロッパ情勢をふまえたうえで、短期間に多くの独立が達成された要因を多面的・多角的に考察し表現している。	中南米諸国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第13章 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動		①ウィーン会議の参加者たちがどのような国際秩序をめざしていたかを理解する。②ウィーン体制を動揺させた要因を多面的・多角的に考察し表現する。③19世紀イギリスの政治変革の特徴について、大陸諸国と比較したうえで理解する。④イギリス・フランス・ドイツにおける社会主義思想をそれぞれ比較したうえで理解する。⑤1848年革命の展開と影響について、ヨーロッパ内の地域差に着目して多面的・多角的に考察し表現する。	19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解している。	ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図や会議を風刺した図像資料などをもとに、ウィーン会議がヨーロッパ各地の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第13章 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成		①クリミア戦争におけるロシア・イギリス・フランスのそれぞれの思惑を理解する。②19世紀後半におけるロシア・イギリス・フランスの諸改革の相違点を理解する。③ドイツとイタリアの国民国家成立を比較し、共通点と相違点を理解する。④ドイツ帝国におけるビスマルクの諸政策の動機を多面的・多角的に考察し表現している。⑤北欧諸国の安定性について、周辺諸国と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。⑥19世紀後半にさまざまな国際運動が進展した背景を理解する。	19世紀後半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、時代的な背景や各国の共通点・相違点もふまえて理解している。	鉄道距離の推移を示す統計やイタリアとドイツの統一を示す地図などをもとに、19世紀後半にヨーロッパの再編成が進んだ背景を多面的・多角的に考察し表現している。	19世紀後半のヨーロッパの再編成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第13章 アメリカ合衆国の発展		①領土拡大がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。②南北戦争において北部が勝利した要因を理解する。③アメリカ合衆国の歴史において移民が持つ意味を多面的・多角的に考察し表現する。	南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造やその後の展開を理解している。	アメリカ合衆国の領土拡大を示す地図や大陸横断鉄道開通の写真などの図像資料をもとに、アメリカ合衆国の急速な発展の要因を多面的・多角的に考察し表現している。	アメリカ合衆国の発展について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第13章 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄		①19世紀欧米文化における担い手や展開された場（空間）の推移を理解する。②国民文化と国民国家形成との関係を多面的・多角的に考察し表現する。③近代諸科学の発展の要因とその成果が広まった背景を理解する。④大都市文化が都市の景観に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	19世紀欧米文化の展開と近代諸科学の発展の経緯を理解している。	19世紀欧米文化のさまざまな事例をもとに、この時期の文化と現代の文化とのつながりを多面的・多角的に考察し表現している。	19世紀欧米の文化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第14章 西アジア地域の変容		①オスマン帝国の動揺の要因を多面的・多角的に考察し表現する。②オスマン帝国の列強への経済的な従属化の経緯を理解する。③オスマン帝国の改革の成果と課題を理解する。④ロシアとイギリスの競合関係が西アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	オスマン帝国・イラン・アフガニスタンにおける動揺や改革の推移を、ヨーロッパ列強との関係ともあわせて理解している。	マムルークの一掃を表した図像資料やオスマン帝国憲法などの資料をもとに、この時期のアジア各地での変化や改革について多面的・多角的に考察し表現している。	西アジアの変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第14章 南アジア・東南アジアの植民地化		①ヨーロッパ各国の東インド会社が南アジアでおこなった活動の状況を理解する。②イギリス東インド会社の機能の変化を多面的・多角的に考察し表現する。③東インド会社の統治と比較したうえで、イギリスによるインドの直接統治の特徴を理解する。④東南アジアの植民地化の経緯を理解する。⑤タイが植民地化されなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。	ヨーロッパ各国による南アジアと東南アジアの植民地化の経緯を理解している。	東南アジアの植民地化の地図やゴムのプランテーションを示した図像資料をもとに、ヨーロッパ各国の進出の経緯をふまえ、南アジアと東南アジアにおける植民地化と世界経済の関係を多面的・多角的に考察し表現している。	南アジア・東南アジアの植民地化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第14章 東アジアの激動		①清朝の危機の要因を多面的・多角的に考察し表現する。②中国の開港の背景および開港の進展の経緯を理解する。③清朝による国内秩序の再建の試みについて、その成果と課題を理解する。④東アジア各地の開港および貿易の拡大がもたらした影響を理解する。⑤欧米諸国の進出と日本の台頭が東アジア諸国間の関係に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	欧米諸国の進出の経緯と東アジア諸国の改革の試みの成果や課題を理解している。	文字資料「マカートニーの1794年1月の日記」やアヘン戦争を描いた図像資料、東アジアの開港場を示した地図などをもとに、この時期の東アジア国際秩序の変容について多面的・多角的に考察し表現している。	東アジアの激動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第15章 第2次産業革命と帝国主義		①新しく生まれた電気・化学製品が人々の日常生活に与えた影響を理解する。②帝国主義の支配を受けた地域における社会や文化の変化を多面的・多角的に考察し表現する。③各列強が抱えていた国内事情とその課題を理解する。④この時期に国際労働運動が再燃した背景とその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	第2次産業革命が社会に与えた影響や帝国主義時代の欧米列強の国内情勢および植民地拡大の経緯を理解している。	国際情勢を風刺した図像資料や「白人の責務」などの資料をもとに、欧米列強が植民地や勢力圏の拡大を争った背景を多面的・多角的に考察し表現している。	第2次産業革命と帝国主義について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第15章 列強の世界分割と列強体制の二分化		①列強の植民地化によるアフリカの社会や文化の変容を多面的・多角的に考察し表現する。②列強による太平洋地域の植民地化の経緯を理解する。③独立後のブラジル・アルゼンチン・メキシコがたどった道を比較し、共通点と相違点を理解する。④20世紀初頭における列強体制の枠組みの変化を多面的・多角的に考察し表現する。	列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解している。	列強の植民地・勢力圏を示した地図や帝国主義を風刺した図像資料をもとに、列強による世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	列強の世界分割について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第15章 アジア諸国の変革と民族運動		①日清戦争と日露戦争が中国および東アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。②改革をおこなったにもかかわらず清朝が倒れた原因を理解する。③インドにおける民族運動の社会的背景を多面的・多角的に考察し表現する。④東南アジア各地の民族運動に共通する傾向を理解する。⑤西アジア各地における民族運動の共通点を理解する。	アジア各地における改革や民族運動がどのように展開し、いかなる結果をもたらしたのかを理解している。	アジア各地の情勢や梁啓超「中国積弱の根源について」などの資料をもとに、アジア各地の変革や民族運動の背景を多面的・多角的に考察し表現している。	アジア諸国の変革と民族運動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
定期考査	2				
	3 学期	大学入試準備			